

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		市民交流プラザ運営管理事業		担当課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間
	施策	子育て支援の充実		種別
	基本事業	安心して遊べる場の提供		市民協働
予算科目コード		01-030205-01 補助	根拠法令・条例等	児童福祉法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和62年度に、児童に健全な遊びを提供し、健康の増進と情操を豊かにすることを目的に児童館が開館（久保ヶ丘地内）。その後、児童の健全育成のほか子育て支援拠点として新たな設置要望が高まり、平成15年度に守谷市児童館建設検討委員会が発足し、施設整備について検討を開始。平成20年度に久保ヶ丘地内の児童館を閉館し、児童センター、家庭児童相談室、市民活動支援センター等が入る複合施設として市民交流プラザが開館した（指定管理者制度導入）。	・運営方法 指定管理者制度（アクティオ(株)） ・指定管理期間 平成28年度から5箇年 ・児童センター業務 児童に対する集团的・個別的な遊びの指導（季節行事、制作活動等）、体力の増進や情操を育む講座やイベント、地域活動支援（子育てサークル・子ども会等の育成・支援）、異世代交流事業（地域住民及び高齢者との交流や異世代交流団体の支援） ・施設貸出業務 施設の利用許可、利用料金の徴収 ・維持管理業務 施設・設備の日常的維持管理及び保守点検 ※児童センターのほか、市が別途運営する施設として、家庭児童相談室（児童福祉課）、ファミリーサポートセンター（地域子育て支援センター）、市民活動支援センター（市民協働推進課）がある。 ※前年度との比較：平成28年度実施の建物診断調査結果を基にした修繕は令和元年度に終了したため、減額となっている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
0～18歳までの児童とその保護者に対して、児童が安心して遊べる場を提供し、健康の増進と豊かな情操の発達を促し、児童の健全な育成を図る。また、保護者同士の交流の場や子育てに関する情報を提供して子育て支援を行うとともに、地域の高齢者との異世代交流等、地域と連携した行事開催をとおして、地域コミュニティの育成を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子どもが、安全に遊び、学び、世代交流できる場を提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・0～12歳までの児童及び保護者に対しては、従来からの方策により認知度向上が図られているが、13～18歳の児童に対しては大幅な来館増に寄与する効果的な方策を実施できておらず、減少傾向が継続している。	〔令和元年度〕 ・R1.10月 次年度修繕及び更新備品の希望調査 児童厚生施設の施設間協議 ・R2.1月 次年度事業計画における中高生取り込み方策について指定管理者に依頼 ・R2.3月 購入備品の予算化 中高生取り込み方策を聴取 児童厚生施設の施設間協議 〔令和2年度〕 ・R2.4月～ 指定管理者による中高生取り込み方策の実施 希望備品の購入
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・各児童厚生施設の指定管理者同士での協議の場を設け、中高生取り込みに対して実践的かつ効果的な方策を検討し、児童厚生施設ならではの価値創出を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☐削減	

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度 of 取組（評価、課題への対応）
0～12歳までの児童及び保護者に対しては、従来からの方策により認知度向上が図られているが、13～18歳の児童に対しては大幅な来館増に寄与する効果的な方策を実施できておらず、減少傾向が継続している。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館や利用制限を行いながらの運営となり、感染防止対策を講じながら可能な限り事業等を実施した。また、休館中は動画配信等を行い、コロナ禍で沈みがちな児童へメッセージを配信した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
0～18歳までの施設利用者数（人）	35,088.00	39,669.00	34,465.00	33,791.00	32,141.00	7,541.00	15,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	新型コロナウイルス感染拡大のため、4～5月が休館となり、その後も感染拡大予防対策により利用制限を行ったため、事業計画通りに開催できない一年となってしまった。しかし、感染状況が落ち着いてきた時期等に自主事業を実施し、コロナ禍においても可能な限り市民サービスを提供することができた。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も利用者数に影響が出ると予想される。コロナ禍においても可能な限り事業が行えるよう感染拡大予防対策を徹底し、事業等の実施に当たっては、予約制や小人数分散化等により事業の実施を行い、今後の事業を維持していく。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	41,021	44,876	41,475	44,153	44,153
	国・県支出金	5,660	5,802	4,821	5,890	5,890
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	314	314	314	319	319
	一般財源	35,047	38,760	36,340	37,944	37,944
正職員人工数（時間数）		131.00	384.00	614.00	0.00	0.00
正職員人件費		547	1,576	2,485	0	0
トータルコスト		41,568	46,452	43,960	44,153	44,153

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		南守谷児童センター運営管理事業		担当課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間
	施策	子育て支援の充実		種別
	基本事業	安心して遊べる場の提供		市民協働
予算科目コード		01-030205-02 補助	根拠法令・条例等	児童福祉法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和62年度に、児童に健全な遊びを提供し、健康の増進と情操を豊かにすることを目的に児童館が開館（久保ヶ丘地内）。その後、児童の健全育成のほか子育て支援拠点として新たな設置要望が高まり、平成15年度に守谷市児童館建設検討委員会が発足し、南守谷地区への新設も含めた施設整備について検討を開始。平成20年度に南守谷地区の児童センターとして開館した（指定管理者制度導入）。	・運営方法 指定管理者制度（(株)こどもの森） ・指定管理期間 平成28年度から5箇年 ・児童センター業務 児童に対する集团的・個別的な遊びの指導（季節行事、制作活動等）、体力の増進や情操を育む講座やイベント、地域活動支援（子育てサークル・子ども会等の育成・支援）、異世代交流事業（地域住民及び高齢者との交流や異世代交流団体の支援） ・施設貸出業務 施設の利用許可、利用料金の徴収 ・維持管理業務 施設・設備の日常的維持管理及び保守点検 ※前年度との比較：主な増額分は老朽化に伴う軒天パネルの張替と庇側面の塗装塗替の実施によるもの。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
0～18歳までの児童とその保護者に対して、児童が安心して遊べる場を提供し、健康の増進と豊かな情操の発達を促し、児童の健全な育成を図る。また、保護者同士の交流の場や子育てに関する情報を提供して子育て支援を行うとともに、地域の高齢者との異世代交流等、地域と連携した行事開催をとおして、地域コミュニティの育成を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子どもが、安全に遊び、学び、世代交流できる場を提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・0～12歳までの児童及び保護者に対しては、従来からの方策により認知度向上が図られているが、13～18歳の児童に対しては大幅な来館増に寄与する効果的な方策を実施できておらず、減少傾向が継続している。 ・設備面に関しては、庇漏水による軒天パネルの浸水、庇側面の塗装剥離等、経年劣化が進んでいる。	〔令和元年度〕 ・R1. 10月 次年度修繕及び更新備品の希望調査 児童厚生施設の施設間協議 ・R2. 1月 次年度修繕等の優先順位及び指定管理者との分担決定 次年度事業計画における中高生取り込み方策について指定管理者に依頼 ・R2. 3月 修繕及び購入備品の予算化 中高生取り込み方策を聴取 児童厚生施設の施設間協議 〔令和2年度〕 ・R2. 4月～ 指定管理者による中高生取り込み方策の実施 指定管理者及び市双方による修繕の実施 希望備品の購入
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・各児童厚生施設の指定管理者同士での協議の場を設け、中高生取り込みに対して実践的かつ効果的な方策を検討し、児童厚生施設ならではの価値創出を図る。 ・施設の安全面については、平成30年に実施した建築物定期調査結果を基に、計画的な修繕を継続実施していく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
0～12歳までの児童及び保護者に対しては、従来からの方策により認知度向上が図られているが、13～18歳の児童に対しては大幅な来館増に寄与する効果的な方策を実施できておらず、減少傾向が継続している。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館や利用制限を行いながらの運営となり、感染防止対策を講じながら可能な限り事業等を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
0～18歳までの施設利用者数（人）	47, 292. 00	47, 815. 00	46, 944. 00	41, 029. 00	38, 229. 00	11, 638. 00	20, 000. 00
	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下 新型コロナウイルス感染拡大のため、4～5月が休館となり、その後も感染拡大予防対策により利用制限を行ったため、事業計画通りに開催できない一年となってしまった。しかし、感染状況が落ち着いてきた時期等に自主事業を実施し、コロナ禍においても可能な限り市民サービスを提供することができた。							
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了 新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も利用者数に影響が出ると予想される。コロナ禍においても可能な限り事業が行えるよう感染拡大予防対策を徹底し、事業等の実施に当たっては、予約制や小人数分散化等により事業の実施を行い、今後の事業を維持していく。							

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	40,493	44,229	43,512	39,959	39,959
	国・県支出金	5,660	5,802	4,821	5,890	5,890
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	841	841	855	857	857
	一般財源	33,992	37,586	37,836	33,212	33,212
正職員人工数（時間数）		88.00	480.00	407.00	0.00	0.00
正職員人件費		367	1,969	1,648	0	0
トータルコスト		40,860	46,198	45,160	39,959	39,959

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		放課後子ども教室事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成19年度～
	施策	子育て支援の充実		種別	法定＋任意
	基本事業	安心して遊べる場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-100401-23 補助	根拠法令・条例等	社会教育法 守谷市放課後子ども総合プラン実施規則，守谷市放課後子ども	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
子ども達に関わる重大事件の発生など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の課題に対応し、心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の方々の協力を得て、平成19年度から学校等を活用するなど計画的に子ども達が安心して活動できる居場所を提供している。	放課後子ども総合プランとして、小学校の校庭・体育館・特別教室等を活用して、遊び、スポーツ・文化等の活動が体験できる場を提供する。 運営業務を民間事業者へ委託し、児童クラブと一体型の運営を行い、プランマネージャーを中心に、地域ボランティアを活用して、放課後児童支援員と連携した活動を行う。 令和2年度から、利用児童の増加に対応するため、学校との調整により、大井沢小学校、大野小学校、黒内小学校の活動室（特別教室、オープンスペース等）が増室となり、計15室で運営する。 委託事業の業務内容や運営体制をチェック・評価し、質の向上を図るため、第三者評価の実施に向けて、アドバイザー3名を依頼し、評価機関及び評価内容等の検討を行う。 〔運営業務委託〕株式会社アンフィニ
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	〔今期委託期間〕 令和2年4月1日～令和7年3月31日 5年間
子ども達の安心安全な活動拠点（居場所）を設け、学習活動やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子ども達の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育むとともに、地域コミュニティの充実を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子どもが、安全に遊び、学び、世代交流できる場を提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
事業開始から10年以上経過し、活動内容も周知されてきているので、今まで以上に活動内容の充実を図るため、参加児童や保護者の声を反映させていく。 学校施設の使用は、使用する教室や時間で管理責任や運営方法を整理する必要がある。 放課後子ども総合プランとして、運営業務委託者のモニタリングを定期的に行い、運営に関する質の向上を促進させる必要がある。また、第三者評価の実施を検討する。 「コミュニティースクール」の設立。	2月 アンケート配布 3月 アンケート回収（次年度） 4月 放課後子ども教室開始（希望者2～6年生） アンケート集計 5月 効果後子ども教室開始（希望者1年生） アンケート結果をもとに運営業務委託者と活動内容について協議（活動内容によっては今年度から実施） 6月 放課後子ども教室体験日実施（希望者1～6年生） 10月 「コミュニティースクール」設立に向けての関係者との調整 通年 運営業務委託のモニタリング、第三者評価の検討 ※例年だと上記のスケジュールとなる。令和2年度は、教室開催が出来ていないので、アンケート等は実施していない。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
活動内容の充実を図るため、参加児童及び保護者に対して、引き続き、アンケート調査を実施する。 また、活動の様子を保護者に見てもらう機会として、親子で参加する活動を取り入れる。 第三者評価の実施に向けて、既存の内部評価シートの見直しをする。 。「コミュニティースクール」設立に向けての関係調整を進める。地域学校協働本部を整備する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☒削減	コロナウイルス感染拡大防止のために教室の開催を見送っているため。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
令和2年度は、4月に数日間教室を開催したが、その後、開催は出来ていない。 今後、ソーシャルディスタンスを保った活動や活動場所の確保が課題となる。	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、4月中旬以降から年度末まで開催を中止した。参加を希望する就労家庭の保護者に対しては、児童クラブへの参加を検討いただいた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
子ども教室開設数（教室）	9.00	9.00	9.00	9.00	12.00	15.00	0.00
子ども教室参加児童数（人/年）	31,097.00	37,640.00	34,434.00	31,500.00	47,799.00	283.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナウイルス感染症対策として、ソーシャルディスタンスを保った活動方策を検討したが、十分な活動場所の確保が困難なため、通常開催を断念した。開催中止を早期に周知したため、混乱は起きなかった。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	新型コロナウイルス感染症が収束し、安全に活動ができるまで開催を見送る方針とした。再開に当たっては、学校内の施設確保による安定した活動の継続が必要であるため、実施場所及び実施時間について再検討する。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	57,589	49,460	9,240	35,673	35,557
	国・県支出金	10,780	10,354	547	14,539	14,539
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	6,640	7,833	1,212	6,921	6,921
	一般財源	40,169	31,273	7,481	14,213	14,097
正職員人工数（時間数）		695.00	184.00	495.00	280.00	0.00
正職員人件費		2,902	755	2,004	1,083	0
トータルコスト		60,491	50,215	11,244	36,756	35,557